

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
 前橋市元総社町六七番地
 電話 027・255・3434
 FAX 027・255・3435

二〇一〇年最後の「ノイエスだより」です。

ノイエス朝日では、今年二十一の企画と四件の貸し画廊の催事を実施いたしました。そして多くの作家やお客様にお会い出来ました。

また、自費出版でも図録(作品集)、詩集、随筆、自分史などの編集に関わり、充実した時間を共有出来、新たな発見や経験をさせていただきました。この場をかりてお礼申し上げます。

恒例になりました弊社社長、石川靖から一文をいただきました。

「必」

日本車はガソリンメーターの針がゼロを指してもまだ数十キロ走りますが、外国車はゼロを指すとピタッと動かなくなると聞いた。「日本では車もサバを読むのか」と思った。ところで「サバを読む」の「サバ」ってどんな漢字だろうと思ひ、家に帰り調べてみたら魚の「鯖」だった。鯖は傷みやすく数も多いので、早口で教えられ実際の数と合わないことから「鯖を読む」と言われているそうだ。英語ではなんて言うのだろうと思ひ、サイデンステッカーさんの「日米口語辞典」(この辞書は便利です)を引いてみると「edge」で「つちあげる」「ごまかす」の意と書いてある。「奴はまたごまかしているぞ」と言うより「奴はまた鯖を読んでいるぞ」と言った方がなんとなく思ひやりと優しさを感じる。日本語は相手を思ひやる言語である。

「字謎」というのがある。数字の一を大無人と書く。大から人を無くして一。二は天無人。三は王無棒。四は罪無非。五は吾無口。六は立無一。七は切無刀。八は木無十。九は丸無点。十は古無口。

京都の龍安寺には「口」を中心に上下左右、四つの漢字が彫られた手水鉢がある。上に吾、その下に足。吾の口の部分が足の口の部分と重なり、口の左に矢、つまり知。口の右に佳で唯。これは「吾唯足知(われただたるをしる)」と読む。「言葉に気をつけよ、また奢るなかれ」という禅の格言を図案化したものだそうだ。漢字の部分足したり引いたりして表現すると切り無く遊べ、また理にかなうものには説得力がある。

来年は統一地方選の年。選挙が近くなると候補者が「必ず私が〇〇します!」、必ず、必ずと喚き散らす。「必ずといふ字心に釘を刺し」。人の心に釘を刺したのだから刺したことを忘れてもらっては困る。棘くらいならまだいいが、五寸釘では堪らない。

石川 靖

参考・出久根達郎著「新懐旧国語辞典」

ノイエス朝日の展覧会案内

第四回 冬のサロン展 <企画>

一月八日(土)〜十六日(日)

午前十時〜午後五時

矢島あい子刺しゅう展

自由な刺しゅうに魅せられて

<貸し画廊>

一月二十二日(土)〜二十六日(水)

午前十時三十分〜午後五時三十分

(最終日は、午後五時終了)

*

X氏のコレクション展 PART II <貸し画廊>

二月三日(木)〜十日(木)

午前十時〜午後五時

本間(本間重雄)教室 「量子力学」のお知らせ

二月十六日(水)・三月十六日(水)・四月二十日(水)

午後二時〜 チケット各一〇〇〇円(三回二五〇〇円)

ノイエス朝日 一階スペース1(ドリンク付)

十二月二十九日(水)〜一月四日(火)まで朝日印刷工業株式会社、ノイエス朝日、Dips・Aはお休みしています。なお、ノイエス朝日(ギャラリー)は、展覧会会期中以外はスタッフは不在の場合もありますので、お電話でお問い合わせ下さい。

ノイエスのティータイム

何年前かの忘年会で街中の飲み屋で旬な刺身とフグひれ酒をいただいた。

煮付けや鍋物などがあつたかもしれない。

寒い中をやっと辿り着いた・小さな部屋で幾人かいた。だく熱燗のフグひれ酒は喉を通るのがわかるような、何とも言えない味がした。

山女の骨酒というのも東北旅行をした時に宿泊先で飲んだことがある。じっくりと魚からしみ出た味と香りが辛口の日本酒に溶け込んで夏の暑さに心地よかった。

こんなふうによく書くと、よほど酒好きのように思われるかも知れないが、めったに飲まない。

少しの酒で、季節の肴で、少々ほろ酔い気分。この程度が心も身体もリラックスできる適量のように感じる。

作家と飲む回数も以前から比べると少なくなったが、酒の席では、お互いに、ある程度の深い話のラインまでいくこともある。制作過程や作品の事は勿論。生き方の問題にまで触れる場合もある。心の壁に触れるような感覚だ。

先日、東京散歩の話を書いたら多くの方から「よく歩きますね」と言われ反響に自分自身が驚いた。

「活字」や日常使われている会話の中でも誤解を生み出すこともあり、多くのトラブルの原因にもなる。何気なく使った言葉が相手を傷つける。まったく予測もしないような展開に発展する事もある。そんな活字や言葉に翻弄(ほんろう)され心が痛んだり、リズムを崩す・よくある話だ。活字にする時、言葉を発する時、感情をコントロールして高まった気持ちをストレートに出す事も良いかも知れないが、一歩引いて自分自身を冷静に見つめなおし対処していく事を心がけたら、ずいぶん楽になるような気がする。上手く生きるということは難しい。不器用な人間は不器用に生きれば・・・それもまた楽しいかもしれないと感じる。近道より寄り道をしての生き方は、かえって多くの出会いと拾物をする事になり、結果的に充実した時間と心の中に沢山の宝石が輝き続ける事になるようだ。

あと数日、この一年を自分はどうのように生きてきたか、生活してきたかを考えてみるのも良いかも知れない。そして来年に向けてこれからどのように生きていこうと考えてみるのも師走の忙しさの中で一案かも知れない。(武藤)

